

土砂災害に備えて『洪水対応演習』を実施



立山砂防事務所では、出水による土砂災害の発生を想定した洪水対応演習を実施しました。この演習は、土砂災害発生時における関係機関への災害情報の報告や体制発令演習等を行い、発生箇所の把握と応急対策・復旧の検討等を行う訓練で、土砂災害が発生した場合に緊急かつ適切な対応を行う事を目的としています。

日時：令和5年5月12日（金）9：00～17：00

場所：立山砂防事務所（3階 災害対策室）

参加者：職員全員

実施内容

- ①情報伝達の演習 ②マスコミ対応の演習 ③土砂災害発生対応演習 ④緊急対策演習
⑤現地画像伝送、ヘリによる現地調査演習 ⑥防災情報共有化システムに関する演習

降雨及び災害の状況（想定）

1. 降雨及び体制状況

- ・ 7時00分 大雨洪水警報発令【富山市、立山町】
- ・ 9時00分 土砂災害警戒情報発令【富山市、立山町】
注意体制発令【立山砂防事務所災害対策支部】
- ・ 10時00分 警戒態勢発令【立山砂防事務所災害対策支部】
富山県中新川郡立山町芦峠寺千寿ヶ原地先の千寿ヶ原観測所において、連続雨量129mm、時間雨量45mmを観測。以降は降雨なし。
- ・ 11時30分 非常体制発令【立山砂防事務所災害対策支部】

2. 土砂災害の発生状況

- ・ 常願寺川本川の津之浦砂防堰堤左岸下流約150mにおいて山腹崩壊が発生。
- ・ 崩壊規模は長さ約180m、幅約150m、平均厚約10m。崩壊土砂量は約270,000m³と推定。
- ・ 崩壊土砂は河川内に約100mの幅で堆積している。
- ・ 川の流れは一部確保されており、湛水は確認されない。

3. 立山砂防事務所の対応

- ・ 土石流の発生により下流へ被害を与える恐れがあるため、下記の対応を実施。
①関係機関への情報提供 ②土砂堆積箇所の監視 ③応急対策の検討
- ・ 崩壊斜面については、ヘリコプターによる上空調査及び災害協定会社による地上からのUAV調査を実施。また、監視カメラ及びワイヤーセンサーによる監視を実施。
- ・ 今後の土砂流出による被害軽減のため、下流の粟巣野第1号砂防堰堤（スリット型砂防堰堤）のスリット部にコンクリートブロック（8t×99個）を積上げ、スリット部を封鎖して流出した土砂を受ける。



【演習後の反省会での意見（抜粋）】

- ・ 伝達方法がFAXからメールへの移行が進んでおり、各自のパソコンの持込を踏まえて災害対策室のレイアウトの見直しを行うべき。
- ・ 現場への巡視は、準備、出発、現地到着、状況報告、帰還までの時間把握を細かく行う。
- ・ 4月の人事異動で新たに配属された職員は、早めに現場を把握しておくこと。
- ・ 訓練での失敗の経験を生かし、本番ではミスのないようにすること。

今回の演習での課題や反省点を改善し、今後の災害対応に反映します。